

第36号

発行日
2022. 3. 12.

Super Highway

JR東労組バス関東本部



JR東労組ホームページ

申6号「2022年度賃金引上げ等に関する申し入れ」 第一回団体交渉(趣旨説明)を行う

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により影響を受け続けているが、12月期収支実績では運輸収入で対前年比129%、営業収益では対前年比123.3%と、昨年の同時期よりも収入は着実に回復している。組合員が安全・安定輸送の確保とお客さまに安心してご利用頂くための努力を継続し会社施策に向き合い、業績回復に向けて日々奮闘してきた結果だ。

昨年の春闘では定期昇給を4分の2と回答され、夏季手当・年末手当も大幅に減額となった。多くの組合員から「昨年のカットされた定昇分を春闘で求めるべきだ」という声も出されている。収入が激減し、モチベーションの低下により退職を決断した社員も少なくない。特に若い優秀な人材が離職している現状に危機感を感じている。

組合

現在も多くの路線で減便が継続しているのにも関わらず、要員不足のために休日出勤が多発している職場もある。要員不足になっている中で、人材の確保はJRバス関東にとっても喫緊の課題であり、コロナ終息後に会社がめざすV字回復を実現するためにも必須である。

組合員・社員がこの先もJRバス関東で安心して働き続けるためにも「定期昇給完全実施」「ベア満額実施」と「55歳・57歳の基本給減額制度」の見直しや「65歳定年制の導入」が必要だ。また昨年の定期昇給カットにより生涯賃金が減額されている状態の課題解決を強く求める。

黒字を目指していく中で、社員のモチベーションは大事である。社員のやる気がなくなれば、会社が思っている計画通りにいかない。今後の黒字化が達成出来るようにしていかなければならない。生活が直結する賃金の交渉であるので、我々もしっかりと議論したい。

基本的には、高速線の回復がまず一番になる。路線の集中と選択の中で赤字路線は見直しをしていくことを本格的にやらなければならない。運行本線についても、コロナ禍以前に戻ることは考えていない。そのような中で、少し収入規模が小さくなるのは否めないが、その中で少しでも早く黒字基調にするかが第一の考え方である。

会社

コロナ禍2年迎えようとしている中で、大きく回復している産業があれば、我々のよう旅客運行等は厳しい状況におかれ、二極化が進んでいる。今年も厳しい春闘に臨まなければいけない。昨年は過去最悪の収支状況、年度決算で48億円あまりの赤字決算となった。今年度は、昨年度に比べれば若干の赤字縮減はあるが、2年連続の赤字決算は、ほぼ間違いのない状況である。1月の収支実績時点で24億円の赤字状況になっている。

会社としては、柱として会社の持続的成長と雇用の確保、この2点を重点的に取り組まなければならない。コロナ禍での待遇改善になるが、業績の見通しが明ければ社員に還元していく前向きな話が出来なくはないが、現状では厳しいという認識で交渉に臨みたい。

バス関東本部は、組合員の生活を守り不安を解消するため、コロナ禍・要員不足など、厳しい状況で奮闘している組合員の現実を会社に訴えていきます。

会社は持続的成長と雇用の確保を柱とするならば、組合員・社員を第一に考え、要求満額回答で我々の声にごたえるべきだ！！安全第一で経営を支えているのは職場のわたしたちだ！！みんなで声を上げて22春闘をたたかおう！！！！

